

小学生との米づくりでは、異年代との交流を通して相手を思いやる豊かな心の育成を図ります



環境学習として、絶滅危惧種「ハマボウフウ」を小学生と一緒に白里海岸に植えて地域を愛する心も増殖します



地域と歩む

学校づくり



大網白里市の名物「いわしコロッセ」と相性のいいエゴマソースを地域の方々の協力を得て商品開発しています



大網駅周辺でのゴミ拾いボランティアで地域貢献と自己有用感を高めま



地域の産業祭では、自分たちがつくった大人気の「いちごジャム」を自信と誇りと感謝の気持ちを含めて販売します

ふれあい動物園では、小学生の目線に立ったわかりやすい説明でコミュニケーション能力を発揮します



令和元年度魅力ある県立学校づくり大賞 応募概要（千葉県立大網高等学校）

1 目的

大網高等学校は、山武農業高等学校と白里高等学校が統合して12年目を迎える。現在は農業関係学科3クラス、普通科2クラスである。

学校教育重点目標の一つに、地域社会や関係機関と連携した教育活動を推進すると掲げられている。その実現に向け「地域に信頼される開かれた学校づくり」を推進し、地域と歩む学校づくりを目指す。

2 成果

農業専門高校が有する施設・設備を活用し、生徒が授業で学んだ知識・技術を小学生や地域の方々へリトリエティーチャーとして教えることで、学習内容の定着を図り、自信と誇りを持って農業関連科目の学習に取り組むことができる。さらに、社会性やコミュニケーション能力の向上を図り、体験活動を通して自己肯定感を高め、自己実現につながっている。

3 準備段階の工夫

ある取組の場合、企画段階から生徒に関わらせ、KJ法を取り入れ、自分の意見と友人の意見と融合させ、具現化への方法を探り、実現させる過程を通し、課題解決能力の育成を目指している。

4 実施段階の工夫

販売会などでは、「大きな声であいさつすれば、みんなが元気になる」を合い言葉に、あいさつや笑顔の大切さを生徒に教えているが、販売会などでお客さんから「ありがとう」と笑顔で言われることが生徒にとって一番の原動力である。

5 広報活動とその成果

各取組は、ホームページに掲載している。生徒の様子が見えるような学校行事やYouTubeにリンクさせた動画配信などを含め、定期的に更新することで、本校のHPのファンを増やし、学校教育の情報発信に努めている。HPの閲覧回数は前年度より増加している。

6 取組への反響

地域の産業祭で一番人気の「イチゴジャム」は、長年のファンに支えられ、販売前から長蛇の列ができ、大網高校のジャムでなければというお客さんがたくさんいる。地域に愛される学校の証である。

7 今後の発展

地域連携の取り組みは、各教員の頑張りに頼っている状態であり、教員の過度の負担を軽減し、持続性のある効果的な取り組みにするために、地域コーディネーターの活用を検討する。